

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名: ハイブッシュブルーベリーの施設栽培			
[要約] ハイブッシュブルーベリーの無加温施設栽培には、ボックス栽培が適しており、3月上旬から被覆を行うことにより早期出荷が図れる。			
キーワード(専門区分) 栽培 (研究対象) 果樹類- 他の果樹類 (フリーキーワード) ブルーベリー、ハイブッシュブルーベリー、施設栽培、ボックス栽培			
実施機関名(主 査) 農業総合研究センター 生産技術部 果樹研究室 (協力機関) (実施期間) 1994年度~2000年度			

[目的及び背景]

ブルーベリーの施設栽培の利点は、市場出荷では、収穫期の前進による有利販売や収穫労力の分散、品質の向上、また摘み取りや直売では、開園期間の拡大や天候に左右されない摘み取りなどがある。しかし、施設栽培は最近始められたもので、栽培方法は確立されていない。そこで、ハイブッシュブルーベリーの無加温施設栽培について検討した。

[成果内容]

- (1) 無加温パイプハウス(以下、施設という)の地植え栽培では、露地よりも新梢の発生本数が少くなり、樹勢が衰える。また、収穫果数が少なく、果実が小さくなるため、収量が大幅に減少する(表1)。
- (2) 施設のボックス栽培(容量60リットル)では、露地よりも新梢の発生本数が多く、新梢が長くなり、樹勢は衰えない。新梢当たりの花芽数は露地と同程度である。また、収穫果数が多くなるので、収量が多くなる(表2)。
- (3) 施設の被覆を3月上旬から行くと、それ以前に被覆するのと同様な熟期促進効果が得られる(表3)。

[留意事項]

- (1) 土壌の乾燥により、新梢の先端が萎凋したり枯死しやすいので、十分に灌水を行う。
- (2) 施設内では花卉の脱落が悪く、また高湿になるため、灰色カビ病が発生しやすい。着果後は、施設内の通風を良好にし、枝を揺らして花卉を落とす。
- (3) 品種により収穫期の前進効果が異なるので、品種の選択が重要である。

[普及対象地域]

県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 施設栽培(地植え)が新梢の生育及び収穫に及ぼす影響

品種	区	新梢発 生本数 z	平均 z 新梢長	総伸 z 長量	収穫果 y 数/樹	1 果 y 平均重	収量 y /樹
アーリー	ハウス	85 本	20.7 cm	17.6 m	708 個	0.60 g	397 g
ブルー	露地	144	20.5	29.6	1,812	1.42	2,570
スパルタン	ハウス	11	16.1	1.7	303	0.88	291
	露地	30	16.1	4.9	938	2.01	1,883

注1) zは、1996～1997年に10cm以上の新梢を調査した。

2) y は、1995～1997年の値。

表2 施設ボックス栽培がウエイマウスの新梢の生育及び収穫に及ぼす影響(1998年)

処理区	新梢発 生本数 z	平均 z 新梢長	総伸 z 長量	花芽数 z /新梢	収穫果 数/樹	1 果 平均重	収量 /樹
ハウス	64 本	21.9 cm	14 m	3.8 個	604 個	1.18 g	688 g
露地	56	14.3	8	4.1	451	1.21	551

注) zは、5cm以上の新梢を調査した。

表3 ハウス搬入時期が開花期及び収穫期に及ぼす影響(1998年)

品 種	処理区	供試 鉢数	開花期(月/日)			収穫期(月/日)		
			始	盛	終	始	盛	終
ウエイ マウス	前年4月	2	3/26	4/ 2	4/ 9	5/19	5/28	6/23
	2月26日	2	3/27	4/ 2	4/ 9	5/18	5/26	6/21
	3月 6日	2	3/30	4/ 8	4/13	5/18	5/30	6/26
	3月13日	2	4/ 2	4/14	4/17	5/22	6/ 1	6/21
	露地	2	4/ 6	4/16	4/23	5/31	6/ 8	6/26
スパル タン	前年4月	2	3/30	4/ 9	4/14	5/19	6/ 2	6/24
	2月26日	1	3/29	4/ 7	4/13	5/25	6/ 5	6/29
	3月 6日	1	3/30	4/ 8	4/14	5/20	6/ 4	6/29
	3月13日	1	4/ 1	4/12	4/19	5/27	6/10	7/ 6
	露地	2	4/ 8	4/15	4/22	6/ 5	6/26	7/ 6

注)ハウスの温度は、2月24日～5月8日の期間最高25℃を目標に、サイドのビニルと入口の開閉により温度管理を行った。

[発表及び関連文献]

ブルーベリーの施設栽培、国際シンポジウム「21世紀のブルーベリー学」、2000年
平成6～12年度果樹試験成績書